

第14回大口町地域交通推進会議（大口町地域公共交通会議）議事録

日時 平成29年1月27日

午後13時30分 開会

場所 大口町役場3階第5委員会室

◇出席委員

松尾幸二郎会長 伊藤浩委員 倉知敏美委員（職務代理者） 佐藤弘信委員  
近藤幸男委員 前田一紀委員 大森邦代委員 山田吉昭委員 酒井貞夫委員（代理 判田氏）  
平井親一（代理 佐藤氏）委員 馬場輝彦委員 古橋靖弘委員（代理 渡邊氏）  
桑原良隆委員（代理 石屋氏） 山田敏也委員 松浦秀則委員 工藤彰郎委員 大森滋委員

◇欠席委員

古田寛委員

◇出席職員

地域協働部長兼町民安全課長 鶴飼嗣孝  
町民安全課 課長補佐 岩崎義宏  
町民安全課 主事補 大胡田晃充

◇議 事

1 開会

進行 町民安全課課長補佐 岩崎

2 町長挨拶

公務により挨拶後退室

3 会長の選任

賛成者多数により松尾委員が会長

4 協議事項（詳細別紙）

- (1) 大口町コミュニティバス事業報告
- (2) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正案について
- (3) その他

5 閉会

## ◇協議内容

(1) 大口町コミュニティバス事業報告（平成27年度、平成28年4月～28年12月）

報告者：事務局 町民安全課主事補 大胡田

### 【資料1-1及び1-2に基づき報告】

## ■平成27年度大口町コミュニティバス事業報告

### 1 目的

「コミュニティバス運行サービスの質を低下させることなく運行経費に係る町負担額の低減を図る」

### 2 前年度（平成26年度実績）

町負担額とは、運行経費から運賃や運行支援費・広告料、県の補助金などの収入を差し引いたもの。

平成26年度の町負担額は3582万782円。一般利用者数は12万1518人。

### 3 目標

### 4 活動計画

「4活動計画」に基づき平成27年度の目標を設定した。

近年の実績を考慮して、昨年度に比べて目標額を減少させた。

### 5 実施状況・結果

#### (1) 運行支援協定

運行支援費は9社及び江南市の全10団体から合計393万円の収入

#### (2) 有料広告の掲載

有料広告はバス停標識が継続23基、新規7基で合計273万8900円の収入で、車内広告が窓枠上部1枠、運転席後部2枠で合計4万5500円の収入、車両ラッピングは固定枠、出来高枠を合わせて95万3400円の収入となった。

#### (3) コミュニティバスサポート隊

コミュニティバスサポート隊（通称バスサポ隊）は平成24年度に特定非営利活動法人「まちなねっと大口」と協働で、コミュニティバスの応援ボランティアを一般から募集し結成。

利用者側からの目でコミュニティバスの利便性向上を目指し、乗車人数の更なる増加を目的に活動を続けている。

平成27年度には、親子を対象にした「夏休みにコミバスにのって親子でわくわくバスツアー」を実施（参加者20名）

8月から9月にかけて「期間限定コミバスにのってスタンプラリー」を実施（13名が景品引き換え）

利用者の要望により平成26年度に製作、設置を行った4か所のバス停のベンチのメンテナンスを行いつつ、新たに2か所のバス停にベンチを設置。

(4) 協定企業のニーズの把握と利便性向上の取り組み

運行支援協定企業から改正要望が無かったため、平成27年度はダイヤ等の改正は未実施。  
「つくしこどもクリニック前」バス停の名称を店舗の移設に伴い、「西小学校東」に変更。

6 効果の確認

平成27年度の運行経費→5740万1712円

収入計→1988万4400円

差し引いた金額である3751万7312円が平成27年度の町負担金額。

3「目標」のとおり、町負担額3730万円台の目標に約20万円不足。

○運賃収入に関して

「一般運賃収入」…現金での利用や、一日乗車券・回数券の販売売上の合計  
「パスカード収入」…各協定企業の利用者数に応じて発行し、月ごとに請求する現金収入・1日乗車券は前年に比べ増加したが、回数券・パスカード収入は減少  
→現金での利用者が増加から町外の利用者が増加している可能性が考えられる。  
パスカード収入の減少は運行支援協定企業の就業時間の変更が原因。  
(夏に就業時間の変更により片道のみ利用となった企業がある。)

運賃収入	約20万円の減少(前年度比98.31%、目標比99%)
広告収入	約10万円の増加(前年度比103.66%、目標比101%)
運行支援収入	約100万円の減少(前年度比79.23%、目標比86%)
乗車人数	約2000人の増加(前年度比102%、目標比102%)

7 反省・今後の進め方

バスサポ隊と連携し、利用者の満足度向上を引き続き図っていく。

平成28年度目標	乗車人数	12万4600人(平成27年度実績比100.5%)
	町負担額	3840万円台(平成27年度実績比103%)
	収入額	2010万円(平成27年度実績比101%)

■平成28年度コミュニティバス実績報告(平成28年4月から平成28年12月まで)

差引実質町負担額は3795万2672円となり、目標額を約40万円上回る見込み。

○見込み額

運賃収入見込み	1303万2500円(目標達成見込み)
運行支援費見込み	372万100円(目標達成)
広告収入見込み	288万3000円(目標まで約20万不足見込み)
補助金見込み	100万円(目標達成)
収入計	2063万5600円(目標達成見込み)

※差引実質町負担額…運行経費から料金収入と町収入を差し引いたもの

○12月までの実績と昨年同月比

現金収入	391万7000円 (105.1%)
1日乗車券収入	27万2000円 (99.27%)
回数券収入	276万4000円 (105.38%)
パスカード収入	308万5800円 (126.02%)
合計(運賃収入)	1003万2500円 (110.65%)

乗車人数は4月以外目標を上回っており、12月までの昨年比では3446人増加している。

<質疑応答>

- ・【伊藤委員】下校バスの利用者数が昨年度より減少している原因は何か。  
→【大胡田主事補】下校バスは小学生だけが利用するもので、教育委員会とバス会社がコミュニティバスとは別に契約している。  
その年の小学生の数によって人数が変動するせいだと思われる。  
→【松尾会長】可能であればその人数の分析も行ってほしい。
  
- ・【大森滋委員】平成28年度の現金収入、回数券収入、パスカード収入が増加した理由はどこにあるのか。  
→【大胡田主事補】パスカード収入は、昨年はある運行支援協定企業が就業時間の変更により、片道だけの利用となり大幅に減少していた。28年度にはそのような変更が無かったため増加していると思われる。  
現金収入、回数券収入が増加した原因ははっきりと判明しないが、コミュニティバスサポート隊が行ってきたバスの利用促進の結果が結びついたと考えている。  
→【大森滋委員】路線ごとの回数券使用状況や現金使用状況などを分析してみると良いのではないかと。  
また、パスカード収入については前年、運行支援費の減額があったということか。  
→【大胡田主事補】運行支援費の減額は行っていない。普段は往復の料金をもたらしているが、片道利用となり、半額になったものである。
  
- ・【松尾会長】昨年度、「つくしこどもクリニック前」停留所の名称を変更したとあったが、本日バスを利用した際に車内表示は「つくしこどもクリニック前」のままであったが変更はしないのか。  
→【大胡田主事補】車体劣化による車両の更新が控えている関係で現在は表示の変更をしていないが、乗務員の方には利用者に正確な停留所名を車内アナウンスすることで混乱が起きないように依頼している。
  
- ・【松尾会長】資料1-1の「4 活動計画」の中のアンケートはとっているのか。また、会議の中で報告はされているのか。  
→【大胡田主事補】前回会議の際にもアンケート内容について報告はしていないが、町広報紙にてアンケート内容は報告している。

→【松尾会長】せっかくの機会なので会議の中でアンケート結果を提示していただき、議論ができればと思うので次回会議では準備をしてほしい。

・【伊藤委員】運行支援協定企業は江南市を入れて10団体となっているが、支援企業のこれ以上の増加は難しいか。

→【大胡田主事補】運行支援協定はその名のとおり町コミュニティバス事業への支援金であるが、現実には支援をしていただいている企業様の通勤手段として、ダイヤ等の改正要望にできるだけ応えようとしている。

バスの乗車人数も限界があるため、これ以上の支援企業の増加は難しいと感じている。

・【伊藤委員】有料広告の車両ラッピングについて、平成27年度は固定枠、出来高枠の合計が953,400円で、昨年度は同じ9社掲出で949,650円だが、広告料の値上げを行ったのか。

→【大胡田主事補】車両ラッピングは民間業者に営業などをお任せしている。固定枠というのは車両後部をその民間業者に買い取ってもらっている。出来高枠は車両側面部分のことで、その部分については民間業者と広告主様の契約の半額をいただくことになっているため、業者と広告主様の契約次第では多少金額が前後することはある。

・【伊藤委員】資料1-1の「6 効果の確認」の運行経費と町負担額の表において、(C)「運行支援費・バス停広告等」というように記載されているが、「3 目標」には「広告収入」というように記載されている。何か意図があって表記を変更しているのか。

→【大胡田主事補】意図は特にございませんで、分かりやすいように統一します。

・【松尾会長】コミュニティバスサポート隊がスタンプラリーやバスツアーを企画・実施しているということだが、大変素晴らしい取り組みであると感じる。実際にやってみた感触などをお聞きしたい。

→【前田委員】バスツアーに参加された方を見ると感触はとても良いが、それがバスの利用者増加に繋がっているかは分からない。大口町は公共交通機関が無く、車に依存している地域であるため、できるだけ多くの人にバスを知ってもらい、利用者を増加させることをコミュニティバスサポート隊は目的としている。

→【山田吉昭委員】ラッピング広告について、現在どれだけのバスが走っていて、どのスペースが空いているのか、また、広告面の大きさによって金額が変わると思われるが、町では大きな広告枠が空いた際に小さな広告枠に掲出している企業に働きかけをしているのか。

→【大胡田主事補】ラッピングをする場所はまだまだあり、広告に興味があるとお話をいただいた企業様にはバス停広告、車内広告、ラッピング広告のご紹介はさせていただいている。

(2) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正案について

報告者：事務局 町民安全課 大胡田主事補

【資料2、別紙①、別紙②に基づき説明】

■改正案

- ①ダイヤの改正
- ②バス停の移設
- ③1日乗車券の小分け販売

■変更時期

- ①、②、③の全てを平成29年4月1日から変更する。

①ダイヤの改正

資料2について、誤りがあったため冒頭で訂正。

- 1 6ページのバス停留所名について、正しくは「萩島・二ツ屋」ではなく「二ツ屋・萩島」。
- 2 資料全般で変更点を赤字表記にしているが、6ページの発着時刻について、現行の15：40バロー前発及び改正後15：45バロー前発の黒字は正しくは赤字であり変更点。
- 3 11ページの「■利用者への事前説明」について、正しくは「平成29年4月以降」ではなく、「平成29年2月以降」。

(1) 基幹ルート

○朝便

運行支援協定企業の利用者様からの始業時間に余裕を持って通勤したいという要望により朝便を資料2の2ページのとおり変更。

○毎日運行便

運行支援協定企業の利用者様からのお昼の終業から乗車をするために少し遅らせてほしいという要望により、資料2の3ページのとおり変更。

(2) 北部ルート

○朝便

運行支援協定企業の利用者様からの始業時間に余裕を持って通勤したいという要望により朝便を資料2の4ページのとおり変更。

また、運行支援協定企業の利用者様からの広く乗車しやすい車へ配車変更をしてほしいという要望から、資料2の4ページのとおり配車及び時刻を変更。

### (3) 中部ルート

#### ○朝便

- ①パロマ前6：30発便を、現在の交通状況に合わせて各バス停間の時刻を資料2の5ページのとおり変更。
- ②運行支援協定企業の利用者様から、始業時間の関係上、江南駅7：20発便より7：00増車便に利用者が集中しているため7：20発便を始業に間に合う時間に変更してほしいとの要望があったため、資料2の5ページのとおり変更。
- ③他のダイヤ改正による調整及び次の便までの待機時間を確保するため、資料2の5ページのとおり変更。

#### ○毎日運行便

各バス停間にあまり余裕がなく、交通状況による遅延の発生や乗務員の休憩時間が確保できないなど、運行上の課題があったため、年間で利用者の少ない「萩島集会場」及び「二ツ屋・萩島」の一部を飛ばすことにより各バス停間に余裕を持たせた時刻に資料2の6ページのとおり変更。

7ページに参考として「萩島集会場」及び「二ツ屋・萩島」の今年度の乗降者数を記載。4月から12月の9か月間で合計100人以下の乗車人数で降車人数は0人。

この便を利用していた方には近くに存在する「二ツ屋」バス停に乗りさせていただくよう広報紙やバス停等で周知する。

### (4) 南部ルート

#### ○毎日運行便

昨今の交通状況では駅での待機時間が少ないため、待機時間を確保するため資料2の8ページのとおり変更。

## ②バス停の移設

### (1) 中部ルート・南部ルート「伝右」停留所の移設案

#### 【変更理由】

町道の道路改良に伴い、交差点に停留所が近くなるため交通安全及び利用環境上、別紙①の場所に平成29年4月1日から移設。

このことについて、江南警察署からは指摘はなく、道路管理者とは協議中。運行回数、運行時刻、路線延長なし。

移動距離が近距離であること、停留所の移設先が目視でわかるような見通しの良い場所であることから、利用者の混乱は少ないと思われる。しかし、乗車する便や路線により3つの停留所を使い分ける必要があり複雑であることから、事前の周知や停留所での誘導に努める必要がある。

【周知方法】平成29年2月以降

- 1 停留所での事前の案内文の掲示
- 2 バス車内、ホームページ、広報紙での周知

## (2) 中部ルート「尾崎町」停留所の移設案

### 【変更理由】

本町コミュニティバスには「江南駅」、「尾崎町」、「今市場・力長町」、「布袋駅」、「北山町」、「天王町」の合計6か所の江南市内の停留所が存在しているが、設置当初、江南市より希望があった場所に設置している経緯がある。

別紙②のとおり、今までは大型車両進入禁止区間内にバスルートがあり、毎年通行許可申請をしていたが、本来の規制の趣旨を考慮し、平成29年4月1日から移設。

運行回数については変更ないが、路線が市道200m延長することに伴い、運行時刻も微調整が必要となるため中部ルートのダイヤ改正案に反映済み。

停留所の位置については経緯を考慮し、江南市に確認してもらい、停留所の移設及び移設位置について問題がないことを地域の方に確認済み。また、道路管理者からも指摘はなし。

【周知方法】平成29年2月以降

- 1 停留所への案内文の掲示
- 2 バス車内、ホームページ、大口町、江南市の広報紙での周知

## ③ 1日乗車券の小分け販売

### ○現在の料金設定

- ・ 1乗車100円の均一料金 ※小学生以下は無料
- ・ 回数券 11枚綴り 1,000円
- ・ 1日乗車券 11枚綴り 2,000円

回数券と1日乗車券は町内6か所の販売所及びバス車内で販売中だが、平成29年4月1日からバス車内に限り1日乗車券の小分け販売ができるよう変更。

多くのコミュニティバス利用者は往復での利用が想定されるため、利用者にとってはより経済的な変更であり、利用者増加が見込める。

### 【変更理由】

回数券の販売冊数に比べて1日乗車券の販売冊数は非常に少ない状況であり、乗り継ぎがしやすくなる1日乗車券の小分け販売を行うことで更なる利用環境向上になると考えられるため。

【周知方法】平成29年2月以降

バス車内、ホームページ、広報紙での周知



<質疑応答>

- ・【渡邊氏（古橋委員代理）】改正後のダイヤは鉄道との接続を考慮しているか。  
→【大胡田主事補】考慮しております。
- 【松尾会長】10分の変更があるが接続に影響はないのか。  
→【大胡田主事補】名鉄電車は10分から15分間隔で電車が来るため問題ない。
  
- ・【石屋氏（桑原委員代理）】「伝右」停留所の移設について、停留所数が2つから3つに増えるため、利用者には本数が減ったように感じるかもしれないため、誤解を生まないような周知方法をとってほしい。  
→【大胡田主事補】誤解が生まれないような周知方法を行います。
  
- ・【佐藤委員】資料2の5ページの中部ルート改正点②の理由で、「7：20発便の利用者が少なく」と書いてある。自分自身この時間のバスを利用することがあるが、むしろ利用者はかなり多い。7：10に変更し、現在の利用者が多くなることにより乗れなくなることはないか。  
→【大胡田主事補】この便はパロマ様、日本紙工様、東海鋳造所様の3社の通勤バスとなっている。この要望はパロマ様からのものであり、「利用者が少なく」という表現は、パロマ様の利用者が7：00便に比べて少ないというものである。  
今すぐに明確な利用者数をお答えすることができず申し訳ないが、7：00便と7：20便の利用状況、バスの容量等を考慮し後日お伝えする。
- 【松尾会長】時刻を10分早めることは問題ないのか。  
→【佐藤委員】時刻に関しては問題ない。
- 【大森滋委員】7：10に変更すると要望している企業は7：00と7：10の両方に従業員を乗車させる予定なのか。  
→【大胡田主事補】現在7：00に偏っている利用者を、7：10に変更することで利用者を分散させる予定である。  
なお、7：20便の平成28年4月～12月のパスカード利用者数は4,724人である。
- 【大森滋委員】また委員の皆さんに集まっていただき審議するのは難しいと思う。この件に関しては副町長である私が後日乗車人数等を考慮して問題がないかどうか判断したいと思うので、一任をいただけないでしょうか。  
→【松尾会長】それではこの件については状況を見て事務局に一任したいと思う。
- 【佐藤委員】後日結果を連絡していただけるのか。  
→【大森滋委員】全ての委員に連絡させていただく。
  
- ・【松尾会長】資料2の7ページ、参考にある「萩島集会場」及び「二ツ屋・萩島」の2つの停留所の乗降者数、特に11：10便「二ツ屋・萩島」について9か月で38人の乗車がある。1か月あたりでは4人の乗車数であり、1人の方が1週間に1度利用されている可能性もある。その辺りは考慮されているのか。

- 【大胡田主事補】「二ツ屋」停留所が非常に近い距離にあり、その停留所は現行どおり停車する予定である。どんな方が利用しているのかは分からないが、そちらを利用していただくようにご案内する。
- 【松尾会長】コミュニティバスの場合、乗務員がいつも利用する方のことをよく知っている可能性がある。もし同じ人が利用されているとしたら少し考慮するようにしたほうが良い。

・【松尾会長】1日乗車券を小分け販売するということが、バス車内の販売に限るのはなぜなのか。

- 【大胡田主事補】回数券と1日乗車券は管理番号があるのだが、1枚ごとではなく11枚つづりに対して番号がふつである。回数券・1日乗車券の各販売所から毎月の販売報告をいただいているため、管理の関係上バス車内での販売のみとした。今後は運用できれば販売所での小分け販売も出来たらよいと考えている。
- 【松尾会長】乗車の際に購入しても1日乗り放題となるのか。
- 【大胡田主事補】使用する際に券に日付入りのスタンプを押すようになっていて、その日付内は乗り放題となっている。

・【松尾会長】資料2の4ページの北部ルート配車変えについて、これは大きな車両から小さな車両に変更する便の乗車人数を考慮しての変更か。

- 【大胡田主事補】901号車、904号車ともに乗車可能人数は11人乗りで定員数に差はないため、乗車できないことはない。901号車のほうが少し広く、今回広いと表現しているのは快適性のことである。
- 【松尾会長】それは逆に小さな車両に変更する便の利用者から要望が出る可能性があるのではないか。
- 【大胡田主事補】明確な乗車人数はいますぐお答えできないが、この便は駅に向かうもので企業の通勤に使っているものではないため問題はないと思われる。

◆中部ルート7：20便の変更はもう少し詳細な分析を行い、事務局に一任するという含めて変更案に対し賛成者多数。

### (3) その他

- ・【鵜飼地域協働部長】せっかくの場なので協議事項に係らず、バスに対し何かご意見があればお聞きしたい。
- 【山田吉昭委員】江南駅からパロマ前に向かうルートに関して、先ほど利用者が多いという話があったばかりではあるが、青山製作所前を通っていくルートの検討をしていただくことはできないか。
- 【大胡田主事補】ありがたいお話しなので、状況を見て是非検討させていただきたい。
- ・【佐藤委員】乗務員によって運転が荒い方がいる。運行会社には配慮してほしい。
- 【松尾会長】研究でも乗り心地というのは利用者にとって重要な要素であると出ている。安全面にも係ることなのでぜひ改善してほしい。
- 【前田委員】コミュニティバスサポート隊でも運転の荒さを調査するために実際にそのような視点で乗車したこともある。

・【前田委員】利便性を高めるために停留所を増やしていった経緯もあると思うが、一方では遠回りして時間がかかるという意見もある。

松尾先生にコミュニティバスのあるべき姿というものをお聞きしたい。

また、コミュニティバスやデマンドバスで失敗したケースがあれば教えてもらえると何かのヒントになるかもしれない。

→【松尾会長】コミュニティバスは地域で育てていくもの。地域の方もある程度は譲歩しながらみんなで考えていく必要がある。すべての要望に応えるのは難しく、やはり全体のバランスをとっていくことが重要である。

また、失敗したケースについては、大口町にあまりそぐわない話かもしれないが、基幹とフィーダーとの関係性の中で利用者が乗り継ぎを嫌い、利用者数が減少しうまくいかなかった事例がある。

他にはバス停数を増やしすぎてしまい、うまくいかなかったケースもあり、やはり全ての要望に応えていくことが重要なわけではない。地域としてある程度バス停まで歩いていただくなど、地域の方に利用方法をわかっていただくことも必要だと考えている。

もし愛知運輸支局からも事例があれば。

→【渡邊氏（古橋委員代理）】中部運輸局のホームページに失敗事例はないが、各自治体などの好事例の紹介があるためそちらを参考にしていきたい。

→【松尾会長】現在では世代交代も非常に重要になっている。

・【前田委員】現在高齢者の事故が多く、「免許返納」というのが話題になっている。公共交通を促す立場ではないかもしれないが、警察では免許返納者に対してどのように考えているのか。

→【山田敏也委員】少しコミュニティバスとは違う話になるかもしれないが、愛知県警は先日葬儀会社と覚書を締結するなどこれまで様々な取り組みを行っているが、それがコミュニティバスの利用増加に繋がるというようなアイデアではない。

→【松尾会長】免許返納に対しタクシーなどの助成もあるし、行きはバスを使い、帰りはタクシーを使うということも想定される。タクシーとバスの連携も含めて免許返納をしやすい環境づくりは大切だと思われる。

・【前田委員】運行会社として、あおい交通から見た大口町コミュニティバスの改善点はあるか。

→【松浦委員】大口町は会社との連携をしているし、犬山市は交通空白地帯の解消が目的であるなど、各市町によって色々な考えがある。

大口町は企業が多いという特徴があるため、このような形で運行しているし、今のところはこの状態が最善かなと思っている。

・【鵜飼地域協働部長】本日お答えできなかった部分については議事録とともに後日お答えしたいと思いますのでよろしくお願いします。